

第10回防災推進国民会議 議事要旨

1. 日時 令和6年12月19日（木）14：00～14：20
2. 場所 官邸2階大ホール
3. 出席者（別紙1）
4. 議事
 - 一. 開会
 - 二. 主催者挨拶（別紙2）
 - 三. 議題
 - （1）防災推進国民会議のこれまでの活動について
 - （2）防災推進国民会議の今後の活動方針について
 - （3）構成団体等の取組について
 - ① 日本青年会議所
 - ② 日本薬剤師会
 - （4）その他
 - 四. 閉会
5. 配布資料
 - 資料1：防災推進国民会議 議員名簿
 - 資料2：防災推進国民会議の活動報告
 - 資料3：防災推進国民会議の今後の活動方針（案）
 - 資料4：日本青年会議所
 - 資料5：日本薬剤師会
 - 資料6：防災推進国民会議 令和6年度取組調査（報告）
 - 参考資料1：防災推進国民会議の開催について
 - 参考資料2：防災推進国民会議の運営について
 - 参考資料3：令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について【概要】
 - 参考資料4：総合経済対策について（防災担当関係）
 - 参考資料5：南海トラフ地震—そのときの備え—
 - 参考資料6：新日本消防会館について
6. 議事概要
 - ①防災推進国民会議のこれまでの活動について
高橋内閣府政策統括官（防災担当）から資料2について報告。
 - ②防災推進国民会議の今後の活動方針について
高橋内閣府政策統括官（防災担当）から資料3について説明し、案のとおり決定。
 - ③構成団体等の取組について
日本青年会議所及び日本薬剤師会からそれぞれの取組等について報告。
 - ④日本消防協会からの紹介
新日本消防会館が建設された旨紹介。

以上

防災推進国民会議 出席者

◎議長 ○副議長 ※代理出席 一欠席

(50音順)

青海 正	全日本中学校長会会長
○ 秋本 敏文	公益財団法人日本消防協会会長 一般財団法人日本防火・防災協会会長
阿部 一彦	日本障害フォーラム代表
新井 ちとせ	日本生活協同組合連合会副会長
稲葉 延雄	日本放送協会会長
岩月 進	公益社団法人日本薬剤師会会長
※ 内田 隆志	全国高等学校長協会会長
※ 遠藤 龍之介	一般社団法人日本民間放送連盟会長
及川 ゆりこ	公益社団法人日本介護福祉士会会長
小西 毅	公益社団法人日本青年会議所会頭
小林 広美	一般社団法人日本介護支援専門員協会副会長
※ 阪本 真由美	特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク理事
櫻井 よう子	全国女性団体連絡協議会会長
※ 笹川 陽平	公益財団法人日本財団会長
一 佐々木 泰子	一般社団法人国立大学協会副会長
柴田 美代子	特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
一 鈴木 宣幸	一般社団法人日本雑誌協会専務理事
須田 貴子	公益社団法人全国子ども会連合会副会長
◎ 清家 篤	日本赤十字社社長
高橋 英登	公益社団法人日本歯科医師会会長
高橋 弘枝	公益社団法人日本看護協会会長
一 伊達 美和子	経済同友会副代表幹事
※ 田中 愛治	日本私立大学団体連合会会長
一 田中 マキ子	一般社団法人公立大学協会副会長
田邊 俊治	全国市町村教育委員会連合会会長
冨塚 昌子	全国都道府県教育委員会連合会理事

豊田 浩子	日本商工会議所国土・社会基盤整備専門委員会委員
※ 中村 史郎	一般社団法人日本新聞協会会長
一 丹羽 寛美	公益社団法人日本PTA全国協議会理事
長谷川 知子	一般社団法人日本経済団体連合会常務理事
福井 直美	公益社団法人全国幼児教育研究協会理事長
坊 恭寿	全国市議会議長会会長
一 松井 一實	全国市長会会長
松本 吉郎	公益社団法人日本医師会会長
三坂 明子	全国連合小学校長会常任理事
光石 衛	日本学術会議会長
※ 村井 嘉浩	全国知事会会長
※ 村木 厚子	社会福祉法人全国社会福祉協議会会長
※ 山本 徹	全国都道府県議会議長会会長
※ 吉田 隆行	全国町村会会長
※ 吉田 義実	全国消防長会会長
一 芳野 友子	日本労働組合総連合会会長
米田 雅子	一般社団法人防災学術連携体代表幹事
渡部 孝樹	全国町村議会議長会会長

石破 内閣総理大臣挨拶

第10回防災推進国民会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

議員の皆様方におかれましては、本会議の活動に御協力をいただき、日頃から防災活動にお取り組みいただいておりますことに心より厚く御礼を申し上げます。

お正月に能登半島地震がありました。そして、9月には豪雨もございました。私も先般も福島に行ってまいりましたが、国民の多くの共通認識となっておるところであります。我が国は世界有数の災害大国という言い方はおかしいのですが、それであることはもう間違いのないところでもあります。さすれば、我が国を世界一の防災大国にしたいと思っております。のみならず、世界に向けて日本の防災意識、防災技術、そういうものを広める、そういう国になりたいと思っております。それによって、我が国のいろいろな構造を変えていくとともに、世界に向けて安心・安全を広めるようにしたいというふうを考えておるところでございます。

政府におきましては、これを進めていきますために、防災庁の設置、これは長年懸案となっておることでもありますし、いろいろな御議論もございましたが、私といたしましては防災庁設置ということを公約に掲げ、政府として取り組んでおるところであります。この準備を進めております。

今般の経済対策におきましても、キッチンカー、トレーラーハウス、トイレカーの迅速な派遣のための官民連携による登録制度の創設等々、とにかくスフィア基準（人道憲章と人道支援における最低基準）というものを考えながら、避難所が今のままでいいと全く思っておりません。これはイタリアあるいは台湾等々、学ぶべき事例はたくさんございます。

そして、私が当選3回するときですが、阪神・淡路大震災がございました。このときに後藤田正晴先生が、『災害を防ぐことはできない。しかし、その後に起こることは全て人災である。』ということをおっしゃったのを私はよく覚えておるところでございます。

本日は皆様方の今年一年の取組について発表を承るというふうに承知をいたしておりますが、我が国の防災力をいかにして高めるか、そして国民の皆様方の意識というものをどのように変えるかということで、全く新しい取組を目指しておるところでございます。皆様のお知恵とお力を賜うことができますよう、心よりお願いして御挨拶いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。